

いちご病害虫情報第8号(1月)

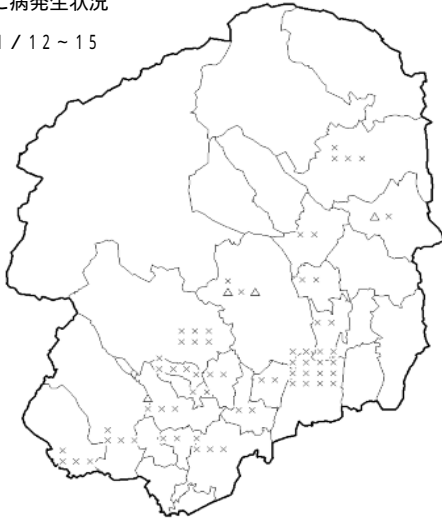
平成22年1月22日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	1	4	3	2	32	39	0	0	総調査ほ場数：70か所 総調査株数：1,750株 (調査株数：1ほ場25株) 今月の病害虫発生状況
	平均値	4.3	1.4	5.7	4.3	2.9	45.7	55.7	0.0	0.0	
	平年値	3.3	4.6	12.2	2.5	4.4	25.8	54.2	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	130.3	30.4	46.7	172.0	65.9	177.1	102.8	-	-	
	発生程度	平年並	やや少	やや少	やや多	平年並	やや多	平年並	少	少	
株率	発生株数	0	1	3	2	2	236	138	0	0	ハダニ類は、過去10年で発生ほ場率が2番目に高く、発生株率が3番目に高い値となりました。また、萎黄病、灰色かび病もみられました。 うどんこ病は、発生ほ場数・発生株率ともに先月より少なくなりました。平年と比べても、発生はやや少ないです。
	平均値	0.0	0.1	0.2	0.1	0.1	13.5	7.9	0.0	0.0	
	平年値	0.2	0.2	0.7	0.1	0.5	7.2	12.0	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	50.0	28.6	100.0	20.0	187.5	65.8	-	-	
	発生程度	少	やや少	やや少	平年並	やや少	多	平年並	少	少	
概 評		やや少	やや少	やや少	平年並	やや少	多	平年並	-	-	

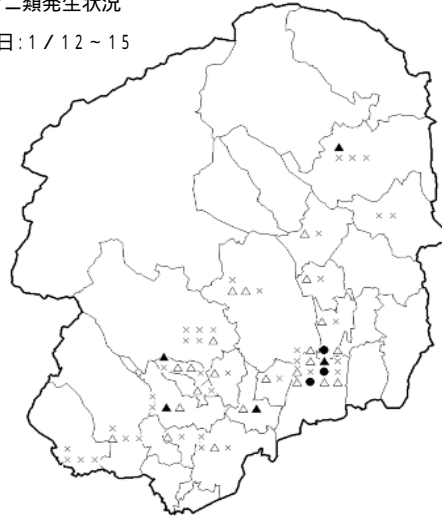
うどんこ病発生状況

調査日：1/12～15



ハダニ類発生状況

調査日：1/12～15



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～10	11～25	26以上
ラベル	x			

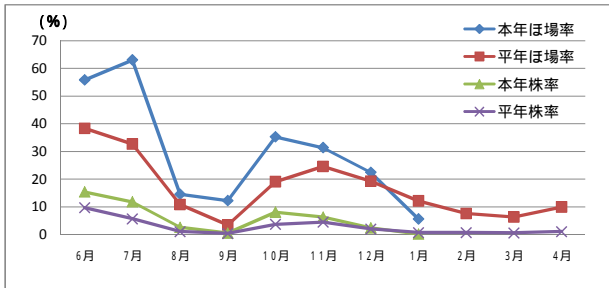


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

程度	無	少	中	多・甚
寄生株率(%)	0	1～40	40～70	71以上
ラベル	x			

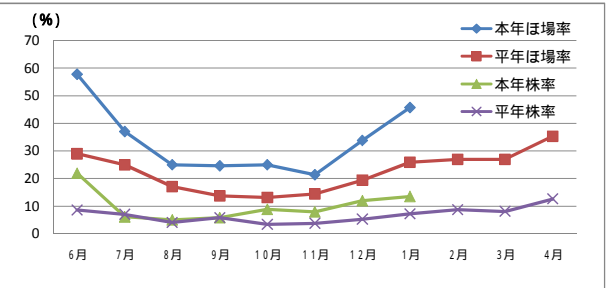


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率



写真1 灰色かび病に感染したいちごの果実

今月の技術情報(技術指導班) (1月)

- ・ハダニが継続して発生しています。今後は徐々に増加することが予想されますので、早めの防除に努めて下さい。
- ・1月11、12日に天気が崩れて以降、灰色かび病の発生が見られます。2月以降には降水量が増え、多湿条件になりやすいため、多発する恐れがあります。下葉かさなどの管理作業、ハウスの適正な温度管理・換気、早めの薬剤防除等により防止して下さい。
- ・例年では受粉用ミツバチの交換時期となりますが、不足が予想される状況が継続しています。当初導入した群をできるだけ維持し、不受精果の発生を抑える努力が引き続き必要です。

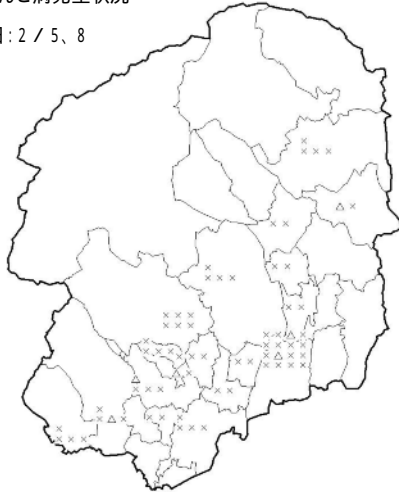
いちご病害虫情報第9号(2月)

平成22年2月19日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	2	2	6	6	2	34	36	1	0	総調査ほ場数：70か所 総調査株数：1,750株 (調査株数：1ほ場25株)
	平均値	2.9	2.9	8.6	8.6	2.9	48.6	51.4	1.4	0.0	
	平年値	3.8	7.0	7.1	1.0	3.8	28.8	50.9	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	76.3	41.4	121.1	860.0	76.3	168.8	101.0	-	-	
株率	発生程度	平年並	やや少	平年並	多	平年並	やや多	平年並	-	少	今月の病害虫発生状況 ・ハダニは引き続き多い状態でした。一部のハダニ多発ほ場では、ハダニの吐く糸で覆われた株がみられました(写真1)。 ・うどんこ病は比較的少なかったが、一部で果実への発生がみられました(写真2)。
	発生株数	0	2	3	0	10	330	233	8	0	
	平均値	0.0	0.1	0.2	0.0	0.6	18.9	13.3	0.5	0.0	
	平年値	0.2	0.4	0.8	0.0	0.6	9.1	12.9	0.0	0.0	
概 評	(平均値/平年値)×100	0.0	25.0	25.0	-	100.0	207.7	103.1	-	-	
	発生株数	少	やや少	やや少	少	平年並	多	平年並	-	少	
	発生程度	少	やや少	やや少	少	平年並	多	平年並	-	少	

うどんこ病発生状況

調査日：2/5、8



ハダニ類発生状況

調査日：2/5、8



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

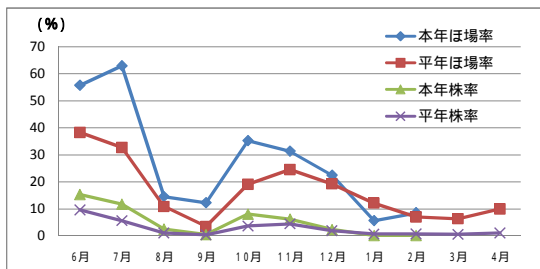


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

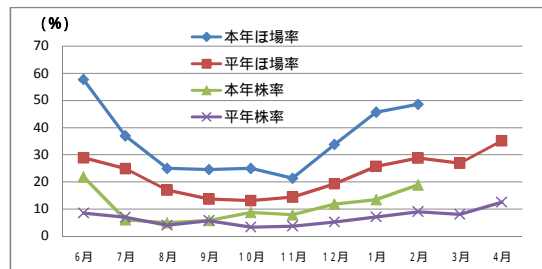


図2 ハダニ類発生ほ場率・株率

写真1 ハダニの多発した株



写真2 果実に発生したうどんこ病

今月の技術情報(技術指導班) (2月)

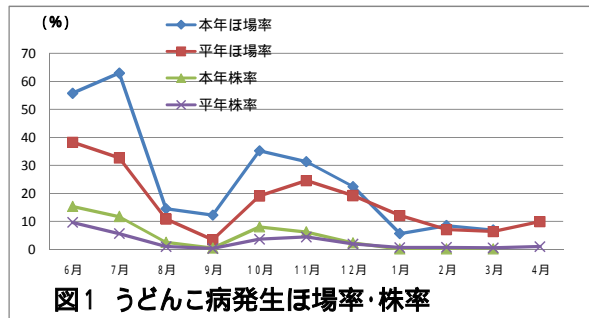
・ハダニの発生が徐々に増加しています。これまで発生していたほ場が継続しているようですが、早めの防除で被害軽減に努めて下さい。

・2月中旬に降雪があり、多湿条件となるため、灰色かび病の多発も心配されます。適正な温度・換気・灌水・下葉かきなどの管理、適期収穫の励行とあわせ、早めの薬剤防除による病害の発生防止に努めて下さい。

・今後は日射量も増加するため、果実の傷みなど品質低下にも注意する必要があります。

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	20	5	8	2	33	34	4	0	総調査ほ場数: 71か所 総調査株数: 1,775株 (調査株数: 1ほ場25株)
	平均値	4.2	28.2	7.0	11.3	2.8	46.5	47.9	5.6	0.0	
	平年値	3.0	10.6	6.5	1.5	2.7	27.6	56.4	0.4	0.0	
	(平均値/平年値)×100	140.0	266.0	107.7	753.3	103.7	168.5	84.9	1400.0	-	
	発生程度	平年並	多	平年並	多	平年並	やや多	平年並	多	少	
株率	発生株数	2	48	4	5	6	257	214	6	0	今月の病害虫発生状況 ・ハダニは引き続き多い状態です。また、アザミウマ類の発生も多くなっています。 ・灰色かび病はほ場率・株率とも発生が多く、下葉の葉柄にも発生が見られています。
	平均値	0.1	2.7	0.2	0.3	0.3	14.5	12.1	0.3	0.0	
	平年値	0.2	0.8	0.6	0.1	0.5	8.6	17.1	0.0	0.0	
	(平均値/平年値)×100	50.0	337.5	33.3	300.0	60.0	168.6	70.8	-	-	
	発生程度	やや少	多	やや少	多	平年並	やや多	平年並	-	少	
概 評		平年並	多	平年並	多	平年並	やや多	平年並	多	少	

うどんこ病発生状況



灰色かび病発生状況

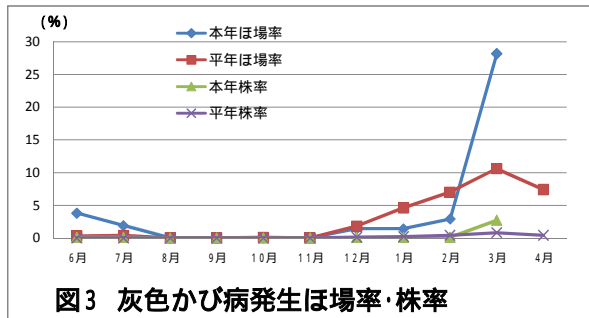


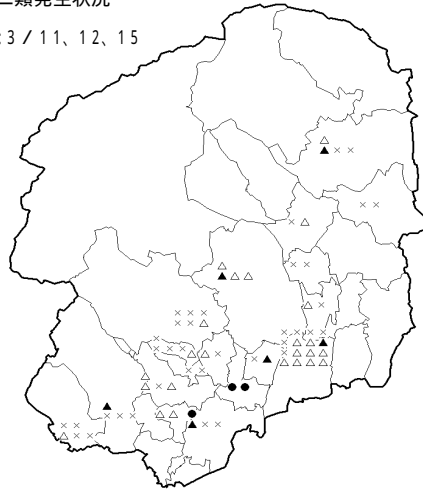
写真1 花に寄生したヒラズハナアザミウマ (中央:雌、右:雄)



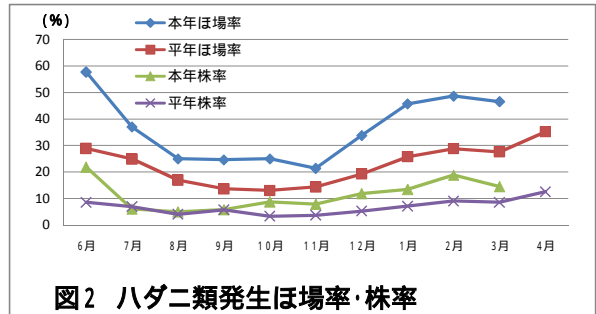
写真2 葉柄に発生した灰色かび病

ハダニ類発生状況

調査日: 3 / 11、12、15



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	×			



今月の技術情報(技術指導班) (3月)

・2月下旬からの天候不順により、灰色かび病の発生が増加しており、ハダニやアザミウマ類も増加傾向にあります。今後は気温が上昇し生育も旺盛になりますので、不要な下葉を取り除き薬剤が葉裏にもよくかかるように散布することが必要です。

・今後は天候が周期的に変わり、日射量や降水量の多い日があります。そのため温湿度の上昇により果実が軟弱となり、傷みの発生が心配されますので注意して下さい。

・3月からは親株の定植時期となりますが、親株は病害虫の発生がないものを選びましょう。活着後はわき芽かき、下葉かきなどの管理作業とともにハダニ類などの発生にも注意が必要です。

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	0	24	2	4	1	34	35	13	0	総調査ほ場数：68か所 総調査株数：1,700株 (調査株数：1ほ場25株) 今月の病害虫発生状況
	平均値	0.0	35.3	2.9	5.9	1.5	50.0	51.5	19.1	0.0	
	平年値	0.0	6.8	9.3	0.5	4.9	36.8	68.1	4.5	0.3	
	(平均値/平年値)×100	-	519.1	31.2	1180.0	30.6	135.9	75.6	424.4	0.0	
株率	発生株数	0	48	2	1	1	229	234	58	0	先月に引き続き、灰色かび病、アザミウマ類が多く見られました。 一部のほ場では、コナジラミ類が多発し、すす病の発生もみられました(写真1、2)。
	平均値	0.0	2.8	0.1	0.1	0.1	13.5	13.8	3.4	0.0	
	平年値	0.0	0.5	1.2	0.0	0.9	13.2	22.3	0.9	0.0	
	(平均値/平年値)×100	-	560.0	8.3	-	11.1	102.3	61.9	377.8	-	
概 評		少	多	やや少	多	やや少	平年並	平年並	多	-	

ハダニ類発生状況

調査日：4/12～16

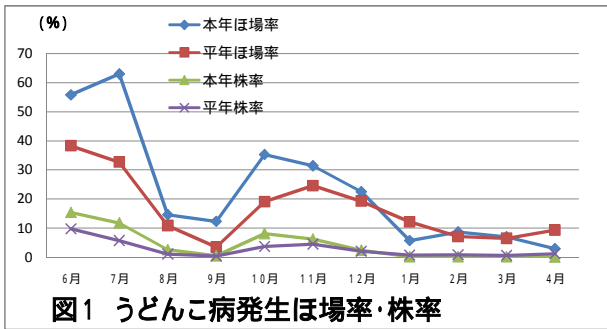


図1 うどんこ病発生ほ場率・株率

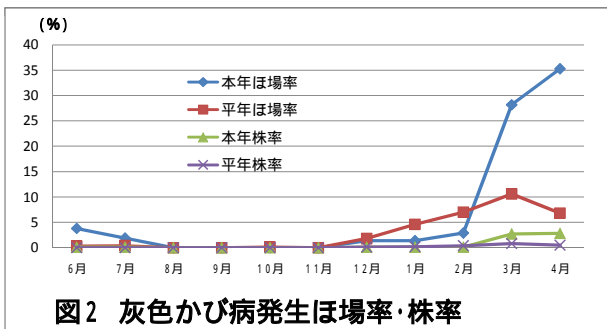
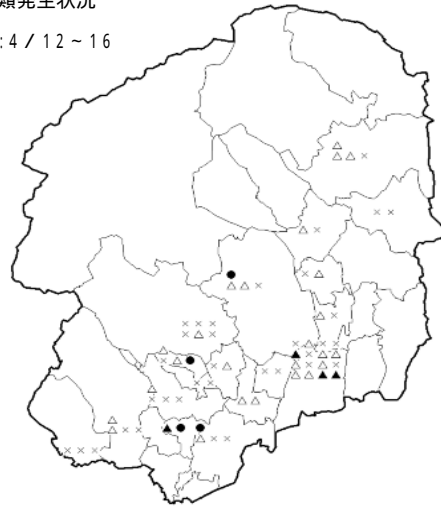


図2 灰色かび病発生ほ場率・株率



写真1 葉裏に多発したオンスツコナジラミ



写真2 葉に発生したすす病

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～40	40～70	71以上
記号	×			

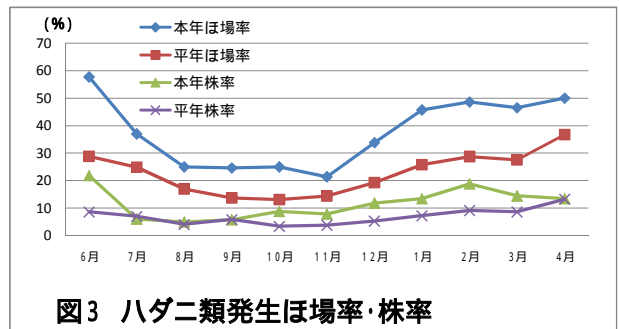


図3 ハダニ類発生ほ場率・株率

今月の技術情報(技術指導班) (4月)

・3月から灰色かび病の発生が増加しています。長期予報によると5月半ばまで低温の確率が高いと予想されていますので、引き続き注意願います。今後は草勢回復が進み、軟弱徒長により果実の軟化や病害発生が助長されることも考えられますので、ハウス内の温湿度管理、下葉かきや葉裏にもよくかかる薬剤散布などを行い、最後まで品質の良いいちごの収穫に努めましょう。

・次年産の作柄安定のためには良苗の育成が重要です。まずは親株からの順調なランナー発生を促す必要がありますので、ハウスの温度管理やかん水管理の徹底に努めるとともに、うどんこ病やハダニ類など病害虫の発生にも注意が必要です。

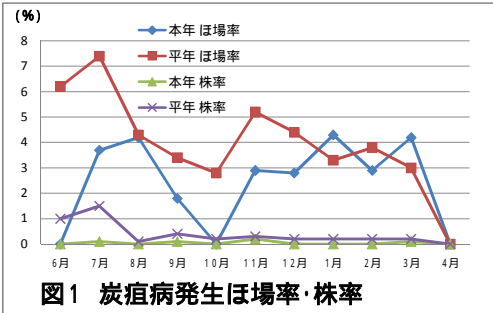


図1 炭疽病発生ほ場率・株率



写真1 炭疽病の汚斑状病徴

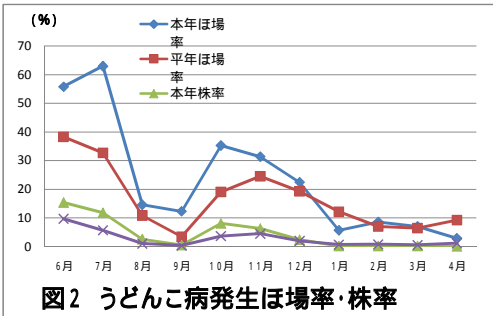


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真2 葉裏に発生したうどんこ病

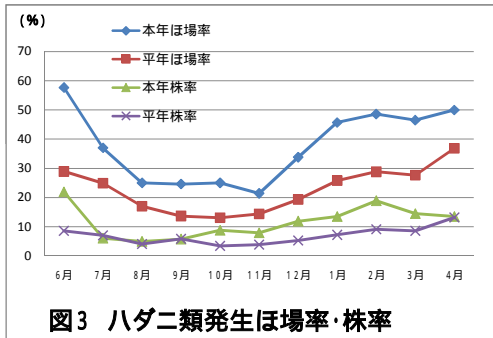


図3 ハダニ類発生ほ場率・株率



写真3 葉裏に発生したナミハダニとカンザワハダニ

《炭疽病、うどんこ病、ハダニ類の発生経過》

- 炭疽病..... 平年6～7月の発生が多い。
本年は、7～8月とともに11～3月の発生が多かった。
- うどんこ病..... 平年、本年とも6～7月の発生多く、次いで10～12月の発生が多い。
- ハダニ類..... 平年、本年とも6月及び1～4月の発生が多い。



《親株床・育苗床の栽培管理上の問題点》

- 6～7月の親株管理～採苗時期の病害虫発生多い。
- ランナーの発生が多くなると薬液もかかりにくくなる。
- 田植え、麦刈りなどの時期は、いちごの栽培管理作業がおろそかになりやすい。



《親株床・育苗床の栽培管理のポイント(技術指導班)》

- 炭疽病..... ハウスによる雨よけや排水対策を行い、発生を予防する。
泥はねがあった場合は、速やかに薬剤による予防散布を行う。
- うどんこ病..... 気温20 前後で発生しやすい。親株床のランナー配置や下葉かきにより通風を良くし、葉裏にも薬剤がよくかかるようにする。
- ハダニ類..... 乾燥条件下で発生が増加しやすい。ほ場をよく観察し、発生を確認したら早期に防除を行い、本ぼに持ち込まない。

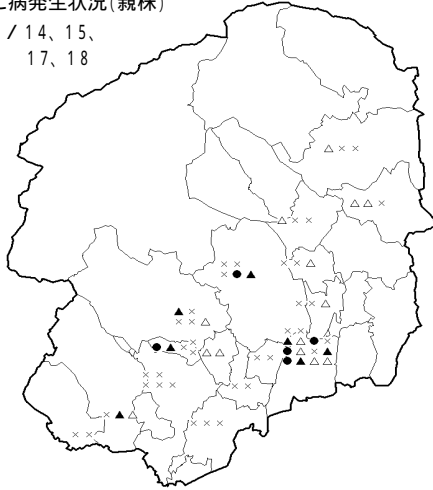
いちご病害虫情報第1号(6月)

平成22年6月25日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	0	0	26	1	21	34	38	3	1	総調査ほ場数：63か所 総調査株数：2,725株 (調査株数：1ほ場25株 ただし、空中採苗方式は50株) 今月の病害虫発生状況 ・6月は親株を調査しました。 ・ハダニ類は親株でやや多いだけでなく、子苗にまで発生しているほ場もありました。 ・一部でうどんこ病が多発しているほ場が見られました。
	平均値	0.0	0.0	41.3	1.6	33.3	54.0	60.3	4.8	1.6	
	平年値	6.2	0.9	38.9	1.0	21.7	34.0	56.3	6.4	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	0.0	106.2	160.0	153.5	158.8	107.1	75.0	-	
	発生程度	少	少	平年並	やや多	やや多	やや多	平年並	平年並	-	
株率	発生株数	0	0	185	0	133	496	220	13	1	
	平均値	0.0	0.0	6.8	0.0	4.9	18.2	8.1	0.5	0.0	
	平年値	1.0	0.0	10.3	0.0	4.7	10.5	14.2	0.5	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	-	66.0	-	104.3	173.3	57.0	100.0	-	
	発生程度	少	少	平年並	少	平年並	やや多	やや少	平年並	少	
概評		少	少	平年並	やや少	やや多	やや多	平年並	-	-	

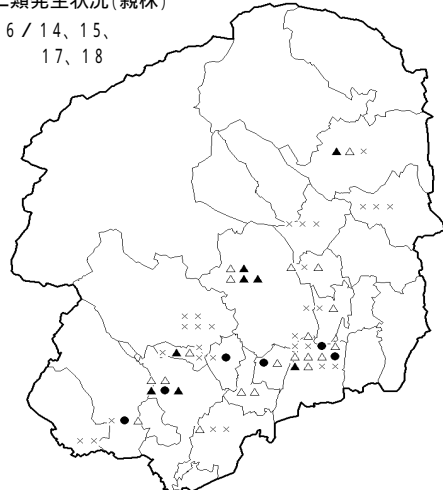
うどんこ病発生状況(親株)

調査日：6/14、15、17、18



ハダニ類発生状況(親株)

調査日：6/14、15、17、18



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

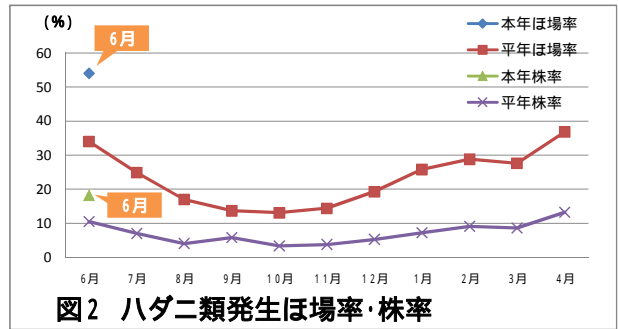
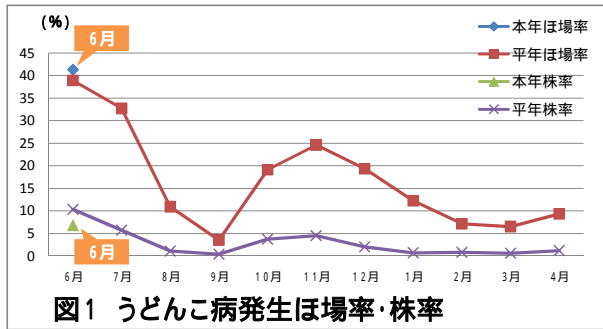


写真 親株に発生したうどんこ病

今月の技術情報(技術指導班) (6月)

・現在、ハダニ類、うどんこ病が県内各地で発生しています。特に、ハダニ類は発生株率も高い状況です。葉裏にも薬剤がよくかかるように、下葉かきなどの管理を適切に行いましょう。

・気象庁長期予報によれば、今年の7・8月は平年に比べ曇りや雨の日が多い予想となっており、炭疽病など高温・多湿を好む病害の発生に注意が必要です。ほ場観察と発生予察情報を参考に、予防的な防除を心掛けて下さい。

・親株床ではこまめな灌水や子苗の誘引等により、大きさの揃った良苗の確保に努めましょう。育苗床ではポットの間隔を広げ、さらに日照不足となった場合は屋根資材の開閉を行うなど、出来るだけ光線に当てる工夫をする等、充実した苗を育てることが重要です。

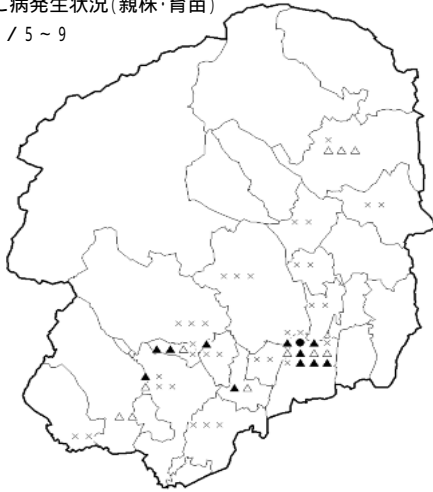
いちご病害虫情報第2号(7月)

平成22年7月23日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	1	2	23	0	6	30	32	2	0	総調査ほ場数：56か所 総調査株数：2,350株 (調査株数：1ほ場25株 ただし、空中採苗方式は50株)
	平均値	1.8	3.6	41.1	0.0	10.7	53.6	57.1	3.6	0.0	
	平年値	5.0	0.6	35.1	0.3	17.7	28.6	42.9	4.3	0.4	
	(平均値/平年値)×100	36.0	600.0	117.1	0.0	60.5	187.4	133.1	83.7	0.0	
株率	発生程度	やや少	多	平年並	少	平年並	多	平年並	平年並	少	今月の病害虫発生状況 ・7月は親株もしくは苗の調査を行いました。 ・ハダニ類は平年よりかなり多くのほ場で発生しています。また、ハダニ類の多発したほ場では、天敵が自然発生していたほ場もありました。 ・炭疽病が発生しているほ場が見られました。
	発生株数	0	0	100	0	25	300	162	2	0	
	平均値	0.0	0.0	4.3	0.0	1.1	12.8	6.9	0.1	0.0	
	(平均値/平年値)×100	0.0	-	70.5	-	45.8	168.4	87.3	33.3	-	
概評	やや少	やや少	平年並	少	平年並	やや多	平年並	やや少	少	-	-

うどんこ病発生状況(親株・育苗)
調査日：7/5~9



ハダニ類発生状況(親株・育苗)
調査日：7/5~9



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

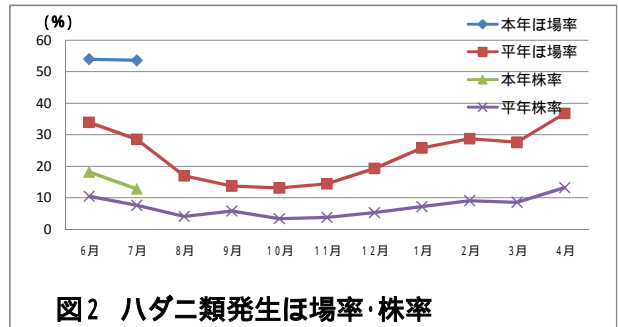
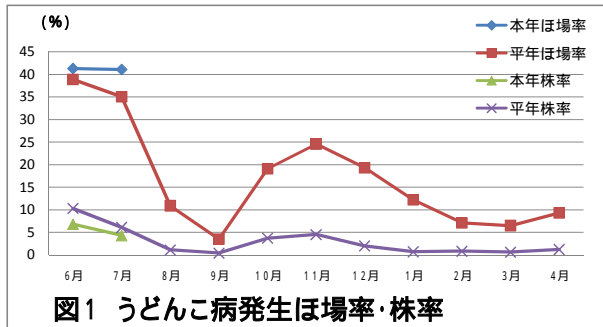


写真1 ハダニ類の天敵、ハネカクシ類



写真2 コナジラミ類が多発生した親株

今月の病害虫防除対策(技術指導班) (7月)

・うどんこ病の発生が継続しています。この病気は比較的低温で発生するため、盛夏期は一時減少することが予想されますが、秋以降に再発しますので、夏期にも予防をしておくことがポイントです。

・ハダニ、コナジラミ、アブラムシ類の発生が見られます。育苗期間中は葉裏へも薬液がかかりやすいので、早めの防除を実施して下さい。

・炭疽病は高温になると発生が増加します。予防散布を徹底するとともに、泥はねの無い灌水の実施や、ハウス内への風雨の吹き込み防止など、普段の管理にも注意して下さい。

・本年は7月中旬まで高温・少日照で推移したため、いちごの苗はやや軟弱な生育となっています。育苗ポットの間隔を広げて徒長を防いだり、日照に応じて遮光の量を調節するなど、病害に強く、充実した良苗作りを心掛けてください。

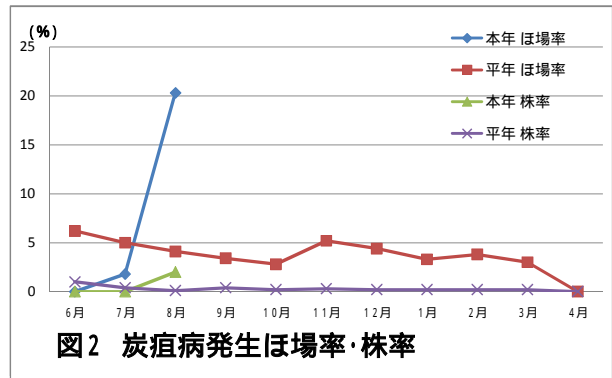
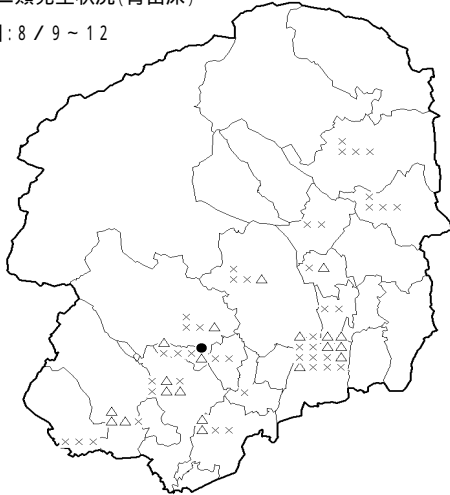
いちご病害虫情報第3号(8月)

平成22年8月23日
栃木県農業環境指導センター

		単位：%									備考
		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	
ほ場率	発生ほ場数	13	0	1	1	15	21	6	1	2	総調査ほ場数：64か所 総調査株数：1,900株 (調査株数：1ほ場25株) ただし、空中採苗方式は50株)
	平均値	20.3	0.0	1.6	1.6	23.4	32.8	9.4	1.6	3.1	
	平年値	4.1	0.0	12.4	1.2	13.1	19.5	12.4	1.5	2.2	
	(平均値/平年値)×100	495.1	-	12.9	133.3	178.6	168.2	75.8	106.7	140.9	
株率	発生株数	38	0	1	0	95	114	4	1	2	今月の病害虫発生状況 ・8月は育苗床の調査を行いました。 ・炭疽病が平年より多くのほ場で発生しています。 ・ハダニ類やアブラムシ類は、平年よりやや多く発生しています。
	平均値	2.0	0.0	0.1	0.0	5.0	6.0	0.2	0.1	0.1	
	平年値	0.1	0.0	1.3	0.0	2.5	4.6	0.8	0.1	0.1	
	(平均値/平年値)×100	2000.0	-	7.7	-	200.0	130.4	25.0	100.0	100.0	
概 評		多	-	やや少	やや少	やや多	やや多	-	-	平年並	

ハダニ類発生状況(育苗床)

調査日：8/9～12



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～40	40～70	71以上
記号	x			

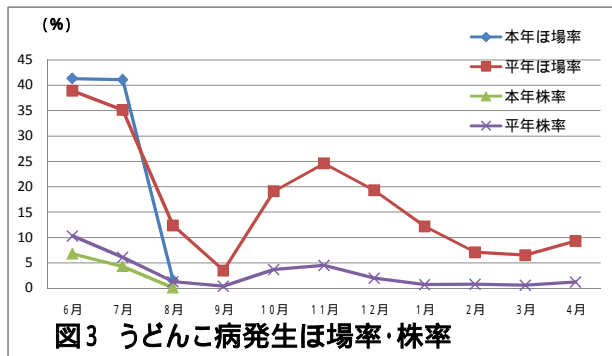
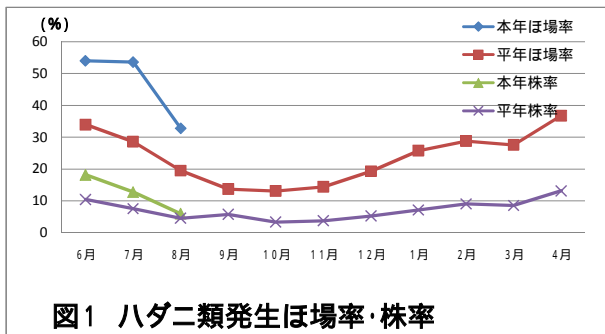


写真1 葉柄に発生した炭疽病



写真2 葉に発生した炭疽病

今月の病害虫防除対策(技術指導班) (8月)

・先月に引き続き、病害虫の発生はやや多い状況で、今後ハスモンヨトウの増加も懸念されます。また、育苗期の後半から炭疽病の発生が急激に増加しつつあります。日常のこまめな観察により病害虫の早期発見、早期防除に努めてください。

・梅雨明け後の高温等により、苗の生育はやや遅れ、充実不足の傾向にあります。苗を充実させ、生育の揃いを良くするため、日照に応じた遮光や、育苗ポットの並べ替え、灌水量の調整などの対策を行ってください。また、苗の揃いが悪いと花芽の分化がばらつきやすいため、定植は頂花房の花芽分化を確認してから行ってください。

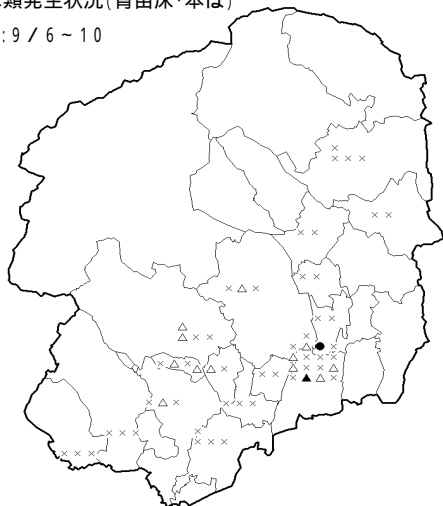
いちご病害虫情報第4号(9月)

平成22年9月17日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	0	2	0	3	14	1	3	14	総調査ほ場数: 60か所 総調査株数: 1,700株 (調査株数: 1ほ場25株 ただし、空中採苗方式は50株)
	平均値	5.0	0.0	3.3	0.0	5.0	23.3	1.7	5.0	23.3	
	平年値	2.8	0.0	4.0	0.5	4.9	15.9	10.8	1.3	11.7	
	(平均値/平年値)×100	178.6	-	82.5	0.0	102.0	146.5	15.7	384.6	199.1	
株率	発生株数	3	0	6	0	31	65	1	2	25	今月の病害虫発生状況 ・9月は育苗床と本ほの調査を行いました。 ・定植された本ほでも、ハダニ類が見られました。 ・ハスモンヨトウの幼虫は多くのほ場で見られ、卵塊のあるほ場もありました。(写真1、2) ・防除員によると、炭疽病の多発ほ場も見られるという情報があります。
	平均値	0.2	0.0	0.4	0.0	1.8	3.8	0.1	0.1	1.5	
	平年値	0.1	0.0	0.3	0.0	0.6	3.9	0.7	0.1	0.9	
	(平均値/平年値)×100	200.0	-	133.3	-	300.0	97.4	14.3	100.0	166.7	
概 評		多	少	平年並	少	平年並	やや多	少	やや多	多	

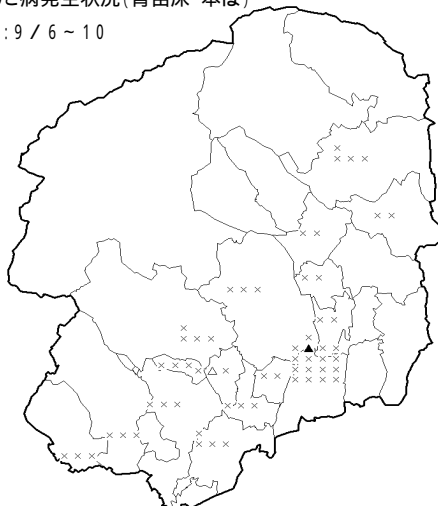
ハダニ類発生状況(育苗床・本ほ)

調査日: 9/6~10



うどんこ病発生状況(育苗床・本ほ)

調査日: 9/6~10



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

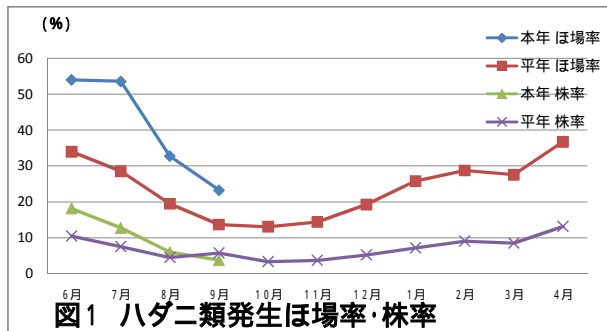


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

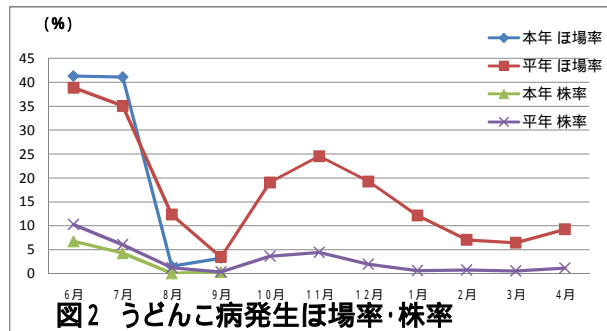


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真1 葉を食害するハスモンヨトウ幼虫



写真2 葉に産み付けられたハスモンヨトウの卵塊

今月の病害虫防除対策(技術指導班) (9月)

・本年は猛暑のため、いちご苗の花芽分化が遅れ、定植もやや遅れ気味となりました。今後は本圃での株の充実を図るため、活着後の灌水は少量多回数で行い、畦内部への根張りを促進して下さい。

・現在ハダニ類やハスモンヨトウの発生が多くなっており、早めの防除が必要です。

・秋期の高温は、いちごの生育・収量に影響を及ぼす恐れがあります。ハウス内の気温上昇を抑えるよう換気に努め、地上部の徒長を防止して下さい。また、マルチ張りは出来るだけ遅らせ、完全保温開始は腋花房分化の確認後、最低気温が8℃以下になってから行って下さい。

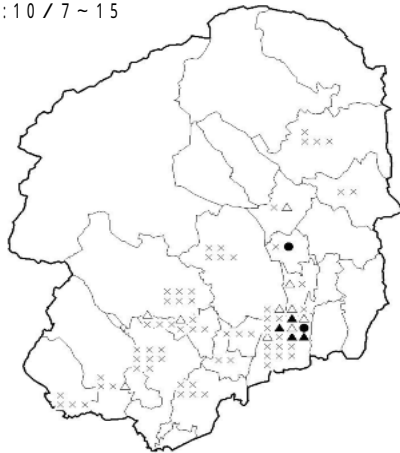
いちご病害虫情報第5号(10月)

平成22年10月22日
栃木県農業環境指導センター

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	0	4	1	18	16	8	4	34	総調査ほ場数: 81か所 総調査株数: 2,025株 (調査株数: 1ほ場25株)
	平均値	3.7	0.0	4.9	1.2	22.2	19.8	9.9	4.9	42.0	
	平年値	2.6	0.0	21.9	1.7	9.0	15.6	23.5	0.5	19.0	
	(平均値/平年値)×100	142.3	-	22.4	70.6	246.7	126.9	42.1	980.0	221.1	
株率	発生程度	やや多	少	やや少	平年並	多	平年並	やや少	多	多	今月の病害虫発生状況 ・炭疽病、うどんこ病、ハダニ類は苗からの持込みと思われる発生がみられました。 ・ハスモンヨトウの幼虫は多くのほ場で見られ、卵塊はイチゴ株の他に、ハウスのパイプ、ネット等にも産みつけられていました。
	発生株数	2	0	16	2	49	141	9	9	105	
	平均値	0.1	0.0	0.8	0.1	2.4	7.0	0.4	0.4	5.2	
	平年値	0.2	0.0	4.5	0.0	1.1	4.2	1.9	0.0	1.5	
		(平均値/平年値)×100	50.0	-	17.8	-	218.2	166.7	21.1	-	346.7
概 評		やや多	少	やや少	やや少	多	平年並	やや少	やや多	多	

ハダニ類発生状況(本ほ)

調査日: 10/7~15



うどんこ病発生状況(本ほ)

調査日: 10/7~15



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

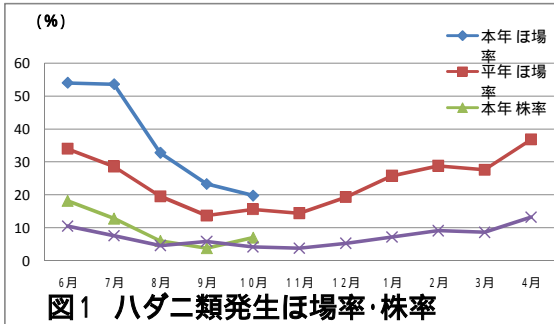


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

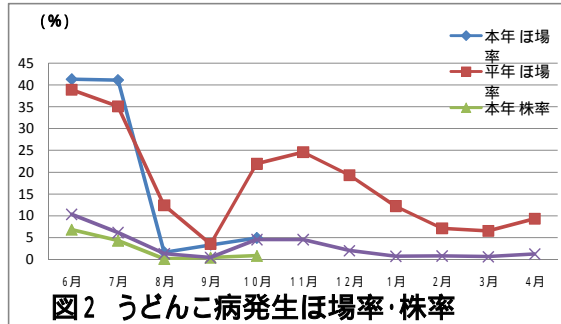


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真1 葉を食害するハスモンヨトウ若齢幼虫

今月の病害虫防除対策(技術指導班) (10月)

・夏の猛暑の影響により、定植はやや遅れ、生育も遅れ気味となっています。10月の気温も高めに推移していますので、株の充実や果実の肥大が良くなるよう、こまめな換気と、少量多回数の灌水に努めましょう。また、ミツバチの訪花活動に影響が出ないよう、ハウス内の気温や湿度の上昇にも注意して下さい。

・ハダニ類やハスモンヨトウの幼虫による被害が多めとなっています。また今後はうどんこ病の発生にも注意が必要です。そのため保温開始までに適正に防除し、収穫期の発生を防ぎましょう。

いちご病害虫情報第6号(11月)

平成22年11月22日
栃木県農業環境指導センター

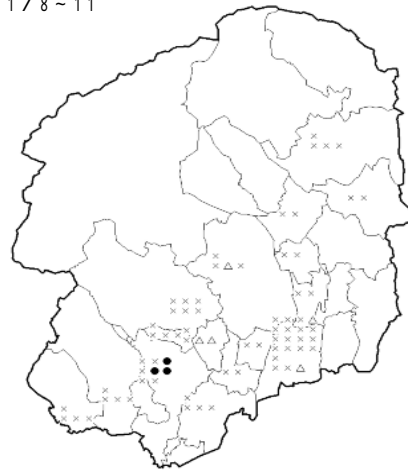
単位：%

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	萎黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	3	0	8	6	10	20	11	0	11	総調査ほ場数：74か所 総調査株数：1,850株 (調査株数：1ほ場25株)
	平均値	4.1	0.0	10.8	8.1	13.5	27.0	14.9	0.0	14.9	
	平年値	5.1	0.0	26.6	3.0	9.8	16.5	33.5	1.0	7.7	
	(平均値/平年値)×100	80.4	-	40.6	270.0	137.8	163.6	44.5	0.0	193.5	
株率	発生株数	0	0	36	5	32	142	13	0	18	今月の病害虫発生状況 ・ハダニ類は先月より増えつつあります(図1)。ハスモンヨトウ幼虫の発生が先月に引き続いて多い他、オオタバコガ幼虫が花を加害している様子も見られました(写真1)。 ・うどんこ病は平年に比べやや少ない発生ですが、先月より増えつつあります(図2)。また、萎黄病が多く見られました(写真2)。
	平均値	0.0	0.0	1.9	0.3	1.7	7.7	0.7	0.0	1.0	
	平年値	0.3	0.0	4.8	0.1	1.9	4.6	3.8	0.1	0.5	
	(平均値/平年値)×100	0.0	-	39.6	300.0	89.5	167.4	18.4	0.0	200.0	
概評	平年並	少	やや少	多	平年並	やや多	やや少	少	多		

ハダニ類発生状況(本ぽ)
調査日：11/8~11



うどんこ病発生状況(本ぽ)
調査日：11/8~11



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~40	40~70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1~10	11~25	26以上
記号	x			

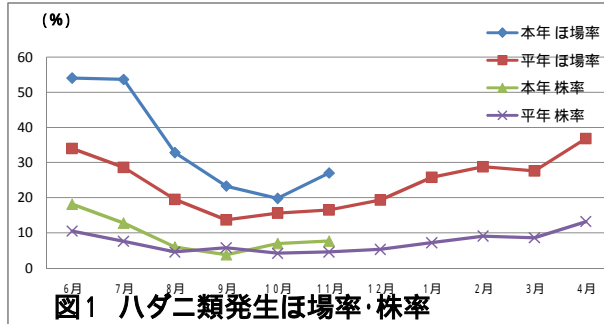


図1 ハダニ類発生ほ場率・株率

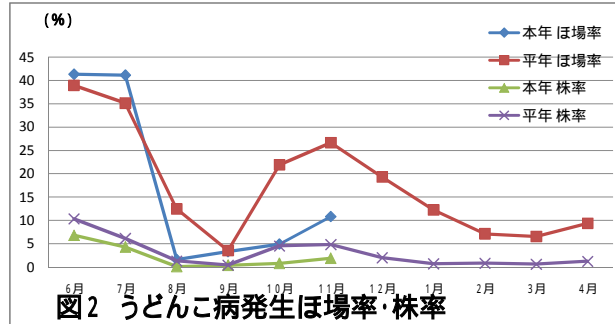


図2 うどんこ病発生ほ場率・株率



写真1 花を食害するオオタバコガ幼虫



写真2 萎黄病

今月の技術情報(技術指導班) (11月)

・夏の猛暑と10月の高温・日照不足の影響により、生育はやや遅れ気味となっています。今後はみつばちの活動不良による授粉障害や、株の徒長が発生しないよう、日中の高温や、過剰な灌水による多湿に注意して管理を行って下さい。

・先月に引き続き、ハダニ類やハスモンヨトウ幼虫の発生が多めとなっています。収穫が本格化する前に適正な防除を行い、被害の拡大を防いで下さい。

また萎黄病の発生も見られますので、被害株は早めに抜き取り、ほ場外で適切に処分して下さい。

いちご病害虫情報第7号(12月)

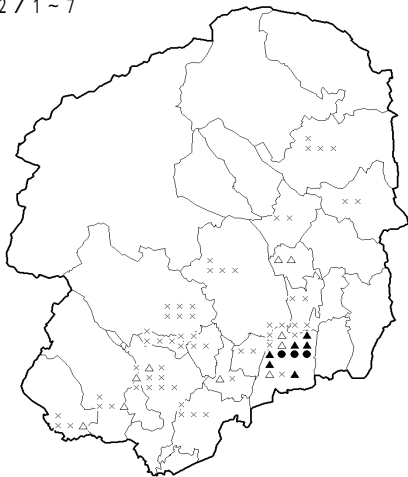
平成22年12月17日
栃木県農業環境指導センター

単位：%

		炭疽病	灰色かび病	うどんこ病	葉黄病	アブラムシ類	ハダニ類	コナジラミ類	アザミウマ類	ハスモンヨトウ幼虫	備考
ほ場率	発生ほ場数	5	0	3	6	10	19	9	0	2	総調査ほ場数：77か所 総調査株数：1,925株 (調査株数：1ほ場25株)
	平均値	6.5	0.0	3.9	7.8	13.0	24.7	11.7	0.0	2.6	
	平年値	3.7	1.7	20.6	3.0	7.2	22.1	43.1	0.6	4.2	
	(平均値/平年値)×100	175.7	0.0	18.9	260.0	180.6	111.8	27.1	0.0	61.9	
株率	発生程度	やや多	少	少	多	多	平年並	やや少	少	平年並	今月の病害虫発生状況 ・ハダニ類は先月より発生株率が増えつつあり、発生が多く見られる地域もあります。また、アブラムシ類の発生が多い状況です。 ・うどんこ病は平年に比べ少発生となっています。
	発生株数	0	0	7	1	40	190	10	0	2	
	平均値	0.0	0.0	0.4	0.1	2.1	9.9	0.5	0.0	0.1	
	平年値	0.1	0.1	2.2	0.1	1.3	6.3	7.2	0.0	0.3	
概 評	(平均値/平年値)×100	0.0	0.0	18.2	100.0	161.5	157.1	6.9	-	33.3	
	発生程度	少	少	少	平年並	やや多	やや多	少	少	やや少	
概 評		平年並	少	少	やや多	多	やや多	やや少	やや少	平年並	

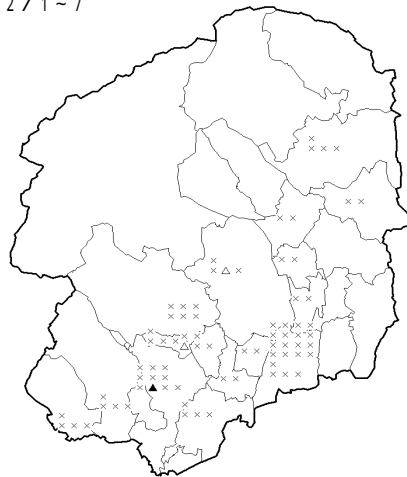
ハダニ類発生状況(本ほ)

調査日：12/1～7



うどんこ病発生状況(本ほ)

調査日：12/1～7



程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～40	40～70	71以上
記号	x			

程度	無	少	中	多・甚
発生株率(%)	0	1～10	11～25	26以上
記号	x			

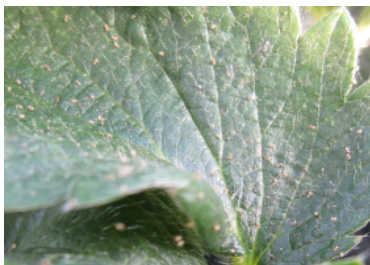
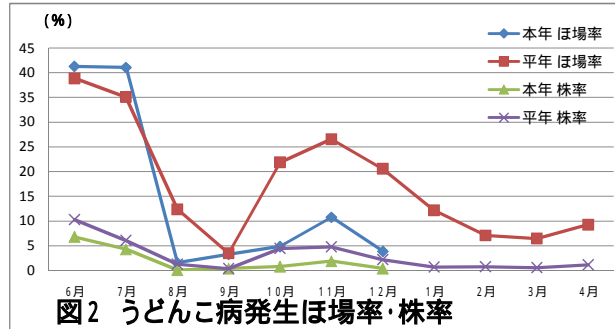
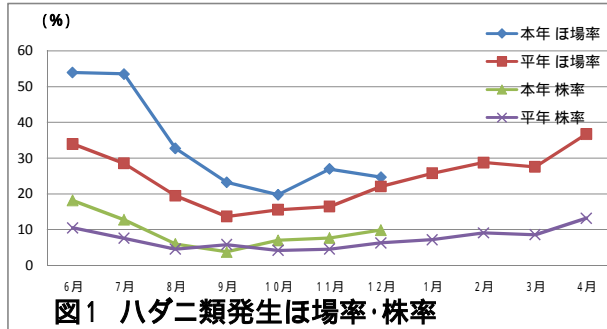


写真1 ハダニ多発生



写真2 アブラムシ類

今月の技術情報(技術指導班) (12月)

・ハダニ類が発生しており、徐々に増加する傾向にありますので、早めの防除に努めましょう。なお、現在発生していませんが、収穫盛期になると防除作業が遅れがちになりますので、日頃からの観察と早めの対応を心掛けましょう。また、病害虫が増えにくい環境を作るため、わき芽や下葉かきなどの作業もあわせて行うことが重要です。

・今後は厳寒期に入り、換気量が減少するため、雨や雪が降るとハウス内湿度が高まり、病害や果実の傷みが発生しやすくなります。そのためハウス内の適正な温度管理や換気、こまめな灌水等を徹底し、発生を防ぐようにして下さい。